



はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

「銀河鉄道の父」で

直木賞受賞の快挙

作家 門井 慶喜さん

作家・宮沢賢治の生涯を、父である政次郎の視点から描いた小説「銀河鉄道の父」で、第158回直木賞を受賞した本市出身の作家・門井慶喜さん。「受賞できてほっとした。ずっと欲しかった賞なのでうれしい」と笑顔で振り返ります。

昔から読書が好きで、宇都宮で過ごした10代の頃には、2・3カ月で100冊の本を読んでいたという門井さん。「特に、自分の慶喜

という名前から、歴史に関心を持つのは必然だった。歴史を解釈することなどは、自分が生きることだと感じた」と、話します。歴史をより深く学ぶため通った大学で出会った恩師の影響を受け、「自分は本を出版し生きていく」と、作家を志しました。

現在は大阪で執筆活動をしている門井さん。「宇都宮に帰るとやっぱいいなあと思う。街中の看板や本屋、オリオン通り、全てに思い入れがあり、ふるさとのありがたさを感じる」と青春を過ごした宇都宮に思いを馳せます。

「これからも、歴史に関する作品を書いていきたい。文を紡ぐ担い手として、何度読んでも新たな発見がある作品を生み出したい」と話す、門井さんの今後の作品が楽しみです。



外国人の皆さんに宇都宮のイトコを訪れてもらいました

今回のテーマは「大谷石の建物」

今回は、宇都宮の北西部にある大谷地区で採れる「大谷石」が使われている建造物や街並みを見に行きました。

まずは、旧上河内町にある芦沼町集落です。道路沿いの家々では、石蔵や石塀などが大谷石で造られていて、その街並みの風景は美しくて見事です。

もう一つは、宇都宮聖ヨハネ教会(桜2丁目)です。この教会と隣の幼稚園は、建物の外壁に大谷石が使われていて、落ち着いた雰囲気になっています。教会の中も素敵な構造で感動的です。

これまで、「石」のイメージは黒や灰色で暗めのイメージでしたし、アメリカには石の倉庫などはめったにありませんでした。大谷石は色も明るく、手触りも温かく、どこか懐かしい気分になります。家族や友達が宇都宮に来たら、ぜひ見せてあげたいと思います。

今回のゲスト

ジャネット ロックさん (アメリカ)

アメリカオレゴン州出身。18年前から日本に在住。現在は、技術翻訳、教会通訳、英会話教師、国際なわとび連盟の役員などの業務に携わる。納豆、すし、天ぷらなど、日本食は何でも好き。餃子は、焼餃子がカリカリしていて好きです。



1 塩田潔さん(大谷石研究会理事長)から説明を受けるジャネットさん 2 芦沼町集落の街並み 3 宇都宮聖ヨハネ教会

「大谷石の建物」について、4月8日(日)午前10時30分～10時40分とちぎテレビ「教えてイトコUTSUNOMIYA」(再放送)で放送します(48ページ参照)。併せてご視聴ください。

◎盲導犬ふれあいデー ▽日時 4月22日(日)午前10時～午後3時▽会場 東日本盲導犬協会(福岡町) ▽内容 盲導犬歩行体験、盲導犬デモンストレーション、チャリティーグッズ販売、犬舎見学など。◎東日本盲導犬協会「盲導犬ふれあいデー」実行委員会事務局 ☎(652)3883